

ルカ 1 : 26-56

1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。

1:28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。

1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」

1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。

1:36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

1:39 そのころ、マリヤは立って、山地にあるユダの町に急いだ。

1:40 そしてザカリヤの家に行き、エリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、子が胎内でおどり、エリサベツは聖霊に満たされた。

1:42 そして大声をあげて言った。「あなたは女の中の祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、何ということでしょう。

1:44 ほんとうに、あなたのあいさつの声が私の耳に入ったとき、私の胎内で子どもが喜んでおどりました。

1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」

1:46 マリヤは言った。「わがたましいは主をあがめ、

1:47 わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。

1:48 主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。

1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。その御名は聖く、

1:50 そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。

1:51 主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ、

1:53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。

1:54 主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもベイスラエルをお助けになりました。

1:55 私たちの父祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです。」

1:56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。

ルカ 2 : 25-35

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。

2:26 また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。

2:27 彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れられた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た。

2:28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

2:29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。

2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

2:31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」

2:33 父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。

2:34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

2:35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」

はじめに

先週は、ヨセフと最初のクリスマスについて学びました。

その中で、ヨセフは自分の置かれた苦しい立場にもかかわらず、神を信頼しました。

今日は、マリヤと最初のクリスマスについて学びます。

マリヤもまた、苦しい立場に置かれますが、彼女の経験は違ったものです。そして、そこから私たちが学べる適用ポイントも違ったものになります。

先ほど読んだ聖書箇所から、今日注目したいポイントが4つあります。

1. マリヤと御使い (ルカ 1 : 26-38)
2. マリヤが神の奇跡を再確認する。 (ルカ 1 : 39-45)
3. マリヤの喜び (ルカ 1 : 46-55)
4. マリヤの苦しみ (ルカ 2 : 25-35)

学びに入る前に、マリヤがどのような人物だったか少しお話ししましょう。

マリヤはエリサベツの親戚だったとあります。エリサベツは、バプテスマのヨハネの母で、祭司ザカリヤの妻です。

つまり、マリヤは祭司の一家の出身であることがわかります。

マリヤが旧約聖書のみことばをよく知っていたのは、そういうわけでしょう。

通常、当時の女性が旧約聖書を教わることはありませんでしたが、マリヤは幼いころからみことばを教わる機会に恵まれていました。

マリヤがヨセフと婚約したのはまだ少女のときでした。

はっきりとした年齢はわかっていませんが、婚約したのが16歳くらいで、イエスを生んだのが17歳くらいだったと推測されています。

わかっていることは、マリヤが処女だったことです。そして、性交によって妊娠することを彼女は知っていました。

マリヤはイスラエルのガリラヤ地方の町ナザレに住んでいました。

この時点で聖書からわかるのはこれだけです。

1. マリヤと御使い (ルカ 1 : 26-38)

この箇所から、マリヤの御使いとの遭遇について、いくつかのことがわかります。

a) マリヤは、神の御子を生むという務めのために神によって選ばれた。

聖書は、マリヤが「恵まれた方」だと言います。神の祝福を受けているというのです。

マリヤは、祭司の家系の出であることと、旧約聖書の知識があることで選ばれたのでしよう。

b) マリヤは恐れた。

マリヤが御使いと遭遇して多少恐れるのは当然でしょう。御使いについて知っていたとしても、天からのお告げを携えて来た御使いに会うのは初めてだったはずで、原語では、この御使いという単語が男性を指す名詞なので、御使いは男性であったことがわかります。

c) マリヤは、御使いの訪問の主旨を聞かされた。

御使いは、マリヤが男の子をみごもるとはつきり伝えます。

そして、その子をイエスと名付けるように言いました。

それから、その子の将来について説明しました。マリヤはその子について、いくつかのことを聞きます。

その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれ、ダビデ王の子孫としてユダヤ人の王となる、という内容でした。

この子は、ヤコブの家をとしえに治めるのです。

これは、マリヤにとって途方もない知らせでした。

マリヤは処女で、男性と性的関係を持った経験がないと自分でわかっていたので、そんなことがどうすれば起こるのか、と尋ねました。（ヨセフはマリヤの男性関係については知りませんでした。）

御使いは、神の聖霊が働かれると答えました。

御使いは、親せきのエリサベツも年老いて不妊だったのに、今は妊娠6ヶ月だと言って、マリヤを安心させました。

御使いは最後に、「神にとって不可能なことは一つもありません。」と言いました。

マリヤは最後には、神のしもべでいられることを喜び、御使いの言葉を信じる、と御使いに言いました。

こうして御使いは去っていきました。彼の任務は果たされたので、次の任務に就くために天に帰ったのです。

適用

46-55 節で明らかになりますが、マリヤは神のみことばをよく学んでいる人でした。これは、神がマリヤを御子イエスの母として選ばれた理由のひとつでしょう。

私たちも、神のしもべになりたいという望みがあるなら、神のみことばを知らなくてはなりません。

けれども、みことばの知識だけが重要なわけではありません。

神のみことばに従ったきよい生き方が大切です。

みことばへの明け渡しが必要です。聖霊に私たちのうちに働いていただくためです。

こんなふうによく言ったものです。人は、みことばの知識に偏ると、「枯れる。」聖霊に偏ると風船のように「膨らむ。」みことばの学びと聖霊への従順がバランスよくできていると、「成長する。」

マリヤは神のみことばを知っていました。そして、御使いをとおして聖霊に従いました。こうしてマリヤはイエスを知り、愛する人へと成長したのです。

私たちはどうでしょう。私たちは、枯れていますか。膨らんでいますか。それとも成長していますか。

私が OIC で牧師として奉仕したこの5年間、たくさんの信徒の皆さんが信仰における成長を遂げ、成熟する姿に励まされました。

それは、その人たちの神のみことばの知識と聖霊に対する従順がもたらした結果です。

皆さんのうちに神が引き続きお働きくださいますように。

一方、この5年間で成熟したクリスチャンへと成長しなかった人も、あきらめないでください。人生をイエスに明け渡し、主に仕えましょう。神のみことばを熱心に学び、生活の中で聖霊に従いましょう。

2. マリヤが神の奇跡を再確認する。(39-45 節)

マリヤは、親せきのエリサベツを訪ねました。

エリサベツが老齢で妊娠したという信じられないような奇跡について御使いが話したので、確かめに行ったのでしょう。

マリヤがエリサベツの家に到着するやいなや、エリサベツのお腹の中の赤ちゃんが聖霊に満たされておどったとあります。

エリサベツはマリヤと会ってすぐに、マリヤが特別な子を生むという聖霊の証をしたのです。

マリヤがイエスの母となる特権に与ったと伝えると、マリヤが来たときにお腹の子が喜んでおどった、とエリサベツは言いました。

そして、「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」と言いました。マリヤに対するこのエリサベツの言葉は、私たちにも当てはまります。

マリヤはまだ16歳くらいの少女だったので、エリサベツの言葉に安心したことでしょう。

エリサベツはずっと年上で、祭司の妻であり、神に従う女性です。マリヤが確信を得るために用いられるもっともふさわしい人物でしょう。

マリヤはこの時知りませんでした。エリサベツの胎内で踊ったのは、イエスの道を備える人物バプテスマのヨハネでした。マリヤの胎内にいるイエスが来られたからです。バプテスマのヨハネは、イエスが地上での働きを始められる前に、人々の心を整えるために神によって選ばれた人でした。

適用

私たちが神のみことばに従って信仰の一步を踏み出す時、とくにそれが人生の大きな決断であるなら、たいていの場合、状況から確信が得られます。

神は、私たちの信仰が弱く、くじけそうになることをご存知なのです。

3. マリヤの喜び (46-55 節)

46-55 節には、マリヤが喜びの歌で応じる様子が記されています。

マリヤは神への賛美に満たされ、口を開くと、みことばがあふれ出ました。

マリヤの喜びの歌には、神のご性質が多数表現されています。

神は、力ある方。 (49 節) マリヤは詩篇 71 : 9 を引用しています。

神は聖い。 (49 節) マリヤは詩篇 111 : 9 を引用しています。

神は、主を恐れかしこむ者をあわれまれる。 (50 節) マリヤは、出エジプト記 20 : 6 にある十戒と詩篇 103 : 17 を引用しています。

出エジプト記 20 : 6

20:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

詩篇 103 : 17

103:17 しかし、【主】の恵みは、とこしえから、とこしえまで、主を恐れる者の上にある。主の義はその子らの子に及び、

神は、ご自身の契約に忠実であられる。 (54-55 節) マリヤはここで、神が最初に結ばれたアブラハムとその子孫への永遠の契約を指しています。

マリヤは、神がアブラハムに与えられた契約が永遠の契約であることを知っていました。

イスラエルの人々と地に対する神のみこころについて学ぶシリーズ説教をするときには、この永遠の契約についてもっと詳しくお話します。マリヤは、祭司の親族の中で、神と神のご性質や契約についてしっかりと教えられていました。

マリヤの歌には他にも神のご性質について触れていますが、すべてを詳しく見る時間が今日はありません。各自で学んでみてください。

4. マリヤの苦しみ (ルカ 2 : 25-35)

マリヤが赤ちゃんのイエスを神にささげるために宮に行くと、そこでシメオンという人と出会います。彼は、主のキリストを見るまでは死なないと聖霊によって告げられていました。

シメオンはイエスを抱くと、イエスに会わせていただいたことを神に感謝しました。

シメオンの祈りと、彼がマリヤとヨセフに話した言葉は、29-35 節に記されています。

ルカ 2 : 29-35

2:29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。

2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

2:31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」

2:33 父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。

2:34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

2:35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」

この個所で、少なくとも 3 つ興味深い点があります。

シメオンは、イエスが異邦人を照らす啓示の光となると言いました。

聖霊は、イエスが異邦人の心にご自身の光を輝かせられるとシメオンに示されました。

異邦人は、ユダヤ人の契約に招き入れられるのです。

これは驚くべき啓示です。神がアブラハムを選ばれ、彼とその子孫に約束を与えられて以来、ユダヤ民族が聖書の唯一の焦点でした。新しい契約によって異邦人も益を受けるようにしてくださった神に感謝します。

次に注目すべき点は 34 節です。ここで、イエスがイスラエルの祝福であると同時に怒りとなると指摘しました。

つまり、イエスを受け入れて祝福される人もいれば、イエスのせいで気を悪くする人もいるということです。

コリント第二 2 : 14-16

2:14 しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。

2:15 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。

2:16 ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。

2000 年経った今も、同じです。人々の反応は変わっていません。

今日皆さんにお尋ねします。あなたは、イエスの福音にどう応答しますか。

永遠のいのちについてもっと知ろうと誘ってくれるかおりでしょうか。

それとも、この世の人生にしか望みのない死のかおりでしょうか。

今日、死と永遠について心に語りかけられたと感じたなら、誰かと話していっしょに祈ってください。

私たちは、お手伝いしたいのです。さばきたいのではありません。私たちの生き方をさばくことができるのは、ただひとりイエスだけです。

最後に、35 節のことばはマリヤにとって苦しい内容でした。

「剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。…」

これは、マリヤの息子であるイエスの死の預言だと多くの聖書学者は考えています。

イエスは神の聖霊によって胎内に宿った子でしたが、普通の子のように成長しました。ですから、マリヤは普通の母親と同じように子を愛していたでしょう。

我が子が成長し、十字架につけられるのを目撃するというのは、マリヤにとってつらい経験だったはずで

イエスが十字架上で死なれた当時、神の永遠のご計画におけるイエスの死の目的についてマリヤがどれだけ理解していたかはわかりません。
けれども大切なのは、神の御子、人の姿をした神であられるイエス・キリストの死がもたらす永遠の影響について、私たちが正しく理解することです。
神の聖霊が今日、私たちに悟りを与えてくださいますように。